

三つの
視点で
ひもとく

オペラの魅力

音楽

オーケストラ

演出

11月8日に上演する全国共同制作オペラ《イル・トロヴァトーレ》は、ヴェルディ作品の中でも圧倒的なドラマ性と名旋律が凝縮された傑作です。情熱的なアリア、緊迫感あふれる合唱、そして新演出による舞台美術など、数々の見どころに満ちた本公演を、より深く味わっていただくための特別講演会を実施します。オペラ通の方も、初めてオペラを鑑賞する方も絶対に聴いて損はない、本番が10倍待ち遠しくなる「見どころガイド」です。

本講演では、音楽・オーケストラ・演出の三つの視点から歌劇《イル・トロヴァトーレ》の魅力に迫り、作品全体の聴きどころや新演出の見どころをインタビュー形式で紹介します。

日時

2026年9月11日〈金〉 18:30~20:00 (受付18:10)

会場

枚方市総合文化芸術センター 別館 6階 大会議室 (〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目1番5号)

参加費

無料 ※事前申込制 ※未就学児入場不可

定員

150名程度 (先着)

申込方法

専用
フォーム

下記URLまたは、右記二次元コードからお申込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/tVFNYdWS5r>

※お申込み後、自動返信メールが届けば受付完了です。当日中に届かない場合はお問い合わせください。
※フォームでのお申込みが難しい場合は、お電話でお問い合わせください。

募集期間

2026年8月1日(土) 10:00~

登壇者



◆小味 洵彦 (音楽評論家)

講演のナビゲーターとして進行とインタビューを担当し、作品全体の魅力や音楽的な聴きどころを紹介。

1971年大阪市生まれ。関西学院大学、同大学院で音楽学を学ぶ。演奏会のための曲目解説、音楽評などを執筆するほか、コンサートのプロデュースも手がけてきた。ステージマネージャーとしても多くの演奏会に携わってきた。同志社女子大学学芸学部准教授(音楽マネジメント)、豊中市立文化芸術センター総合館長。



◆山口 明洋 (大阪フィルハーモニー交響楽団 演奏事業部長)

本公演で演奏を担当する大阪フィルの代表として、オーケストラの視点から作品の音楽の魅力や演奏上の聴きどころを紹介。

中央大学文学部史学科西洋史学専攻卒業後、在京オーケストラのステージハンドを務め2002年にステージマネージャーとして大阪(現日本)センチュリー交響楽団に入団。16年より公演制作に携わり、のちに自主公演の制作を担当する。19年に(公社)大阪フィルハーモニー協会に入職し、現在は演奏事業部長として、大阪フィルハーモニー交響楽団の自主公演の制作を担当する。



◆高岸 未朝 (演出家)

本公演の演出家としての視点から《イル・トロヴァトーレ》の魅力語り、新演出の見どころや舞台づくりのこだわりを紹介。

明治大学文学部演劇学専攻卒業。2004年「友人フリッツ」の演出で新国立劇場にデビュー。2009年には「ウリッセの帰還」ヘンツェ編曲版を日本初演、「オペラ演出かくあるべし」と各紙で絶賛される。2017年に三菱UFJ信託音楽賞(=大賞)を、2013年、2019年には同奨励賞を受賞。現在、東京藝術大学、国立音楽大学、相愛大学各講師。劇団俳優座文芸演出部所属。

◆注意事項

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※お申込み時にご入力いただいた個人情報は、当催しの目的以外には使用いたしません。
※当日は、主催者による記録撮影を行います。後日、広報物に使用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※やむを得ない事情により、記載内容に変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

◆お問合せ

枚方市総合文化芸術センター 本館
☎072-845-4910

休館日：第4火曜日(祝日を除く)
<https://hirakata-arts.jp/>

◆アクセス



京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分
駐車場(有料)の数に限りがあります。
公共交通機関をご利用ください。